



http://hacchi.jp

このまちがもっと、このまちらしく輝くためのソウゾウ開化…
「はっち」が贈る、おいしい情報。

酔払いに愛を2017～横丁オンラインシアター～
アートな横丁へご案内

はっち市2017
手仕事人たちのあれこれ

DASHIJIN・88異国プロジェクト・マチニワ・こどもはっち
写真・映像展レポート・88異国日記レポート・水の樹・イベント紹介

hacchi event program イベント情報

■青森土木フォーラム第10回記念大会 市民・子供向け体験学習・ポスター展

11月11日(土)・12日(日) 9:00~16:00 (11日は11:00~)

第10回目の大会を記念し、土木技術・建設工事に関わるポスターを展示します。
問合せ:八戸市港湾河川課 0178-43-9386

■八戸市空き家活用相談会

11月23日(木・祝) 10:00~15:00

所有する空き家の活用について、建築・不動産・行政等のプロが、中立的な立場から無料で相談に応じます。
問合せ:八戸市建築住宅課 0178-43-9109

■はっちのクリスマス2017 八戸いちごマルシェ & 菓子まつり

11月25日(土)・26日(日) 10:00~17:00

「八戸いちご」を使ったクリスマスケーキや大福づくり体験、スイーツの実演販売や、菓子コンクールの投票など、八戸いちごとお菓子づくりのイベントです。

■第5回はっちがずっと南部弁

12月2日(土)・3日(日)

八戸地方の方言「南部弁」を見直し・学ぶイベントです。
・2日(土) 祢谷伸氏プロデュース
「南部弁サミット2017」
・3日(日) 十日市秀悦氏プロデュース
「南部弁バラエティシアター全員集合!」

■はっちのお正月

1月2日(火)・3日(水)

法螺神楽の一斉歎打ちや書道ガールズによるパフォーマンス、琴の演奏、八戸地域スポーツチーム合同イベントなど、おめでたい企画でお正月を彩ります。

■第54回八戸市中学校美術展

1月19日(金)~21日(日)

(19日 13:00~21日 16:00まで)
市内中学生の絵画・彫刻・造形などの美術作品を一堂に展示します。
問合せ:八戸市総合教育センター 0178-46-0521

hacchi news はっちニュース

■まちぐみラボ移転情報

八戸のまちに“なんか楽しそう”を作り出す市民団体「まちぐみ」の活動拠点「まちぐみラボ」が十八日町から本八戸駅通りへ移転しました。

平成27年7月、八戸三社大祭前夜祭から約2年間、まちぐみ組員の活動拠点となったまちぐみラボ。移転先は、八戸三社大祭や八戸えんぶり期間に合わせて、本八戸駅通りの空き店舗を活用し、まちぐみもお手伝いをした「内丸喫茶酒場」での交流がきっかけ。たくさんの人と繋がってまちぐみの活動はこれからも続きます。新たな「まちぐみラボ」をぜひ覗いてみてください。

はっち
情報
発信中!!

f https://www.facebook.com/hacchi8
t https://twitter.com/hacchi_staff

八戸ポータルミュージアム「はっち」は、地域の資源を大事に想いながら新しい魅力を創り出すところ。まちづくり、文化芸術、観光、ものづくり、子育てを軸とした活動をサポートする多様な設備を備えています。

八戸ポータルミュージアム「はっち」 http://hacchi.jp
TEL 0178-22-8228 FAX 0178-22-8808

〒031-0032 青森県八戸市三日町11-1
開館時間 / 9:00~21:00 ※こどもはっち 9:30~16:30
休館日 / 毎月第2火曜日(祝日の場合は翌日)、12月31日及び1月1日

発行:八戸市まちづくり文化スポーツ振興部 八戸ポータルミュージアム 発行月:平成29年1月

*が付いているイベントは、はっちの自主事業です。

■まちぐみ presents 南部蓑刺研究会代表 山田友子さん監修 はっち × 南部蓑刺し

12月17日(日)・1月21日(日) 11:00~15:00

南部地方に古くから伝わる伝統工芸「南部蓑刺し」。その南部蓑刺しをはっちの椅子にさしてみましょう。世界につだけの椅子を創ってみませんか。

■和日カフェ～日本文化に親しむ日～

12月17日(日)・1月21日(日)

毎月第3日曜日は日本文化に親しむイベントを開催。12月は篆刻・書・刻字の作品展示や落款印作り体験、つまり細工のアクセサリー作り、お茶席を実施します。

■ストリート投げ銭ライブ in はっち

11月8日(水)・22日(水)・12月27日(水)

1月10日(水)・31日(水) 19:00~20:00

市内外のアーティストたちがはっちひろばでパフォーマンスを披露します。

《出演》 11/8 Mojo山内 & 小笠原リョウ(ギターデュオ)
11/22 鈴木友紀子(Standard jazz系)
12/27 馬なし亭 吐助(落語)
1/10 The Beat Wave(ビートルズのコピーバンド)
1/31 Gonza一座(World music)

お知らせ

平成30年度冬のイベント企画実施者募集

平成30年11/23(金・祝)~12/25(火)の期間で「冬」や「クリスマス」をテーマとした、誰もが「見る・聞く・体験できる」企画を実施する人を募集しています。一般受付に先立ち、優先的に貸館申請を受付けます。

【募集締切】 平成29年11月30日(木)必着
【使用会場】 はっちひろば、シアター1
ギャラリー1、シアター2
ギャラリー2、ギャラリー3
(会場により使用期間が異なります)

※施設使用料・備品使用料は有料です。
詳細ははっちまでお問い合わせください。

information 市内施設情報

南郷歴史民俗資料館

■企画展「思い出の学校展 -今はなき、南郷の学校-

9/16(土)~3/25(日)

平成28年3月に閉校した市野沢小・中野小・鶴田小を中心、地域とともに歩み、地域に愛された南郷の学校を、資料や校歌でご紹介します。



鶴田小学校(平成2年までの旧校舎)

② 9:00~17:00(入館は16:30まで)

④ 月曜日(第一月曜日、祝日の場合は開館)

祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)

年末年始(12月27日~1月4日)

☎ 0178-83-2443

◆ http://www.hachinohe.ed.jp/haku/nango/

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

■パネル展

「伝える-大正・昭和初期のは川遺跡記録写真vol.3-」

12/16(土)~3/21(水・祝)

大正から昭和初期のは川遺跡やその出土品は、ガラス乾板に撮影されていました。保存修理とデジタル化によって鮮明に写し出された当時の様子をパネル展で紹介します。



ガラス乾板に記録されたは川遺跡出土の土偶

(※パネル展は観覧無料です)

② 9:00~17:00(受付は16:30まで)

④ 月曜日(第一月曜日、祝日・振替休日の場合は開館)

祝日・振替休日の翌日(土・日曜日、祝日の場合は開館)

年末年始(12月27日~1月4日)

☎ 0178-38-9511

◆ http://www.korekawa-jomon.jp/

八戸ブックセンター

■八戸ブックセンター開設1周年記念事業
朗読劇「銀河鉄道の夜」

12/16(土) 17:00~19:00

会場:八戸市文化教養センター 南部会館

古川日出男、管啓次郎、小島ケイタニーラブ、柴田元幸による朗読劇です。物語と歌と詩が交錯する奇跡の世界をお届けします。



岩手での公演の様子(2012年9月)

② 11:00~20:00

④ 火曜日(祝日の場合その翌平日)、年末年始(12/29~1/1)

☎ 0178-20-8368

◆ https://8book.jp/

street event まちなか情報

■Co部屋ができました

新美術館建設に向けた新たな拠点「はちのへまちなかアートラボ Co部屋(コペヤ)」が、八日町ダイヤビル1階に開設されました。

エントランスには新美術館の模型や、市民からの意見を気軽に書き込めるボードを設置。新美術館へ向けての情報発信はもちろん、作品展やワークショップができるスペースを用意し、市民とのコミュニケーションを大切にしながら新美術館に整備される巨大空間「ジャイアントルーム」での活動へとつなげていきます。

未来の美術館につながる「コペヤ」へお気軽にお立ち寄りください。



八戸市内丸1丁目3-16

その他各社新聞、コミュニティラジオ局BeFMでも情報発信中です。

八戸市八日町9ダイヤビル1階

平日 10:00~17:00 ※土日祝休



[交通のご案内]

バス／八戸駅東口からバス八戸市中心街方面行き[約25分]

八戸中心街ターミナル(八日町)下車すぐ

JR／八戸駅からJR八戸線本八戸駅下車[徒歩約10分]

航空機／三沢空港から八戸市内シャトルバス[約55分]

フェリー／八戸港フェリーターミナルから車[約15分]

車／八戸駅から車[約20分]

※一般来館者の駐車場はございません。

お近くの有料駐車場をご利用ください。



印刷部数15,000部・印刷費用1部あたり32円

ち
よつと肌寒くなつた夕暮れ時。お酒と
アートを求めて、酔っ払いがネオ
ンが灯る横丁へ集まりました。10月に開催され
た「横丁オノリーユーシアター」は全国的にも
珍しい8つの個性的な横丁が集まる八戸の中心
街を「アートとお酒」で楽しむイベントです。
「横丁オノリーユーシアター」は、読んで字
のごとく「アナタだけの劇場」。アーティスト
が横丁の空き店舗や路地を舞台に、お客さんに
手が届きそうな距離でパフォーマンスを繰り広
げます。公演会場をはじめながら、ピンクの
提灯がともるドリンク交換店でお酒を調達し、
お酒を片手に横丁を巡ります。
9回目となる今年は、県内外から7組のアーティスト
が出演。もちろん地元で活動するアーティストも。
僕かしさと新しさが混在する
ディープな横丁はアーティストにとって魅力
的な場所!個性的な彼らの手にかかるれば、いつ
もの横丁も一瞬にして熱氣あふれる劇場へと生
まれ変わります。
いつもの横丁
が「アート」と「お
酒」と素敵な「人」
との出会いの場
となりました。



HACHINOHE ALLEY
LOVE FOR DRUNK

赤丸急上昇 (ダンス)

スナックのカウンターを使って男女のもつれを1人2役でコミカルに演じたり、メッセージ性の強いパワフルなダンスを踊るなど、多様な表現で観客を魅了しました。お面をつけたダンスでは、見る者の想像をかきたて、涙する観客も!



秋風リリー (金粉 SHOW)

スポットライトを浴び全身金色に塗った姿で妖艶なダンスを披露。人間の肉体美を極限まで追求した金粉ショーに会場の視線は釘付け! バラを手渡し観客をリリーワールドへ引き込みました。



チ・ジェ・ジェチヨル (韓国太鼓)

2回目の出演。韓国太鼓のリズミカルな音が夜の横丁に響き渡りました。パフォーマンスの合間に、お客さんとライドを持って楽しく横丁を廻り、お客さんを巻き込んだ新たなパフォーマンスを披露しました。

横 丁 オ ン リ ー ユ シ ア タ ー

八戸 横丁月間
酔っ払いに愛を 2017

アートな横丁の夜へ
ようこそ!

un-pa (ロビングパフォーマンス)

4回目の出演。街中でイタズラを仕掛けて楽しいハプニングを生み出す天才です。全身銀色の出で立ちで八戸の横丁に溶け込み、街行く人と無言のコミュニケーション! 銀色の姿が爽快と歩く姿はこの時期の横丁名物となりつつあります。

清水宏 (スタンダップコメディ)

2回目の出演。「炎の演劇コメディアン」らしく、会場を笑いの渦に巻きこむパワフルなステージを披露。何度でも観たくなる面白さにリピーターが出るほど! リピーターのために毎回公演内容を変えているのは流石! の一言でした。



日の出前のまだ薄暗い中、八戸の朝が動き出します。
市内各地で市が立ち

周辺の農家や漁師から採れたての野菜や魚が運ばれます。
路上やひろばにお店が連なり

日が昇るにつれて次々とお客様が集まつてきます。
散歩がてらコーヒーを飲みに来たり

顔なじみと世間話をしたり
あつという間に市場は市民の社交場に。

現在市内に残るのは9つの朝市。
八戸ならではの「朝を楽しむ文化」です。
今なら秋の味覚であふれているはず。

朝市に行って、銭湯へ行く休日なんていかがでしょう。
そう、朝市は市民の元気の源なのです。

片町朝市の模型 (はっち 2階)

ミニチュア工房 ちびっつ@・作
(※片町朝市は2010年に終了しました)

朝市は冬季休業があります。(※各朝市によって時期が異なります)



水の樹イメージ図（※今後変更になる可能性があります）



水の樹の床面には水の波紋のような模様が描かれる予定

街なかにある「庭」をコンセプトにはっちの向かいで建設中の（仮称）三日町にぎわい拠点（通称「マチニワ」）。来年のオープンに向けて工事が着々と進んでいます。

**市民が考える
マチニワの使い方**

これまで、マチニワオープンに向けて、市民を対象にマチニワでどんなことをしたいのか、どんな使い方をしたいのかなどマチニワの活用方法について勉強会やワークショップを開催してきました。アーティスターに弘前大学大学院教授の北原啓司さんと、全国まちなか広場研究会事務局長で広場ニーストの山下裕子さんをお迎えし、全国のひろば活用の事例を紹介いただき、マチニワの活用について考えました。その中で、参加者から「朝にラジオ体操やヨガをしたい」「朝市をやってみたい」「ランチスポットとして活用したい」「日なたぼっこをしてのんびり寝寝したい」といったアイデアが出されました。特に、マチニワの開館時間や情報発信については、具体的なマチニワの使い方に基づいて意見を活かして、マチニワの開館時間や使用にあたってのルール作りを行っています。

**マチニワのシンボル
「水の樹」****マチニワ内部には、水に触れる**

ことができる感じの空間となるよ

う、また、イベントを開催してい

るときでもそれを目的に人々が

訪れてくれるよう、夏場はこそ

もたちが遊べるような噴水・水

み場にもなる水のモニュメントを

設けます。これは「松任谷由実

や「MIC Children」のCDジャケットなどを手がけたアートディレク

ター森本千絵さん（三沢市出身）

が監修したもので、マチニワのシ

ンボルツリーとして「水の樹」と

名付けられています。また、この

水の樹が時計代わりに、定期的に

「じしおどし」の音を館内に

響かせてくれる予定となっています。

また、この

水の樹が時計代わりに、定期的に

「じしおどし」の音を館内に